

# 令和7年度鹿児島県がん教育モデル校としての取組

霧島市立溝辺中学校

## 1 取組内容

### (1) 事前授業(令和7年11月28日)

事前授業では、「事前アンケート」→「がんの基本知識の授業」→「がん患者さんに聞きたいことを考える」といった流れで行った。基本知識の授業では、がんの種類、がん細胞の働き方、生活習慣との関連、早期発見・早期治療などについて、「調べてみよう!がんのこと」(鹿児島県保健福祉部健康増進課)を活用して授業を行った。2人に1人の割合でかかる可能性があること、原因不明のものが多いことなど、誰にでもかかる可能性があることも併せて指導した。教科担自身が、がんで家族を亡くした経験談を話し、身近にがんという病気が存在しているということを強調して事前授業を終えた。



### (2) 本時の授業(令和7年12月18日)

NPO法人がんサポートかごしまの三好綾さんを招き、2・3年生の保健体育科の合同授業として実施した。導入と終末を教科担が行い、展開を三好さんが行った。

導入では、事前授業の振り返りを行い、がんに関する基礎知識の復習、がんの予防策などについて生徒たちに振り返りを行った。予防について、前時で原因不明のものが多いと触れたのだが、「生活習慣が原因」と回答する生徒が多かった。

展開の前半では、三好さんが、事前アンケートで生徒が挙げた質問について回答していくという形式で行い、後半では「かみづるさんのいのちの授業」のスライドを用いて、がん経験者の思いや願いについて触れた。

終末では、三好さんの話や「かみづるさんのいのちの授業」の話聞き、生徒がこれからの生活にどのようにつながってほしいのかなどを中心にまとめを行った。授業の感想も書かせ、その内容から、今回の授業で多くの学びがあったことがうかがえる内容が多かった。

授業全体を通して、生徒たちは三好さんの話を真剣に聴き、中には涙を流す生徒もあり、深い学びにつながった様子であった。



### (3) 三好さんへの手紙(本時の授業の振り返り)

授業後に、三好さんへの手紙を生徒に書かせた。感想は、がんについての捉え方が変わったことや、がん患者さんへの関わり方、今後自分の命を大切にしたいなどという感想が多かった。特に、かみづるさんの「(生きているだけで)そのまま金メダル」の言葉に励まされた生徒が多かったようである。今回の授業を通して、これからの生活につなげようとする生徒の姿を見取ることができた。

## 2 成果と今後の展望(○:成果,●今後の展望)

○ 普段の授業では深く触れることのできなかった内容を、外部講師から詳しく説明していただくことで知識を深めることができた。

○ がん患者さんの生の声を聴く機会をいただいたことにより、がんについてより深い学びができて、生徒にとってよい経験となった。

● 学校全体でがん教育について研修を行う機会を設けたい。保健体育の授業だけでなく、学校の教育活動全体でがん教育を行えるよう、年間の指導計画を見直していく必要がある。

● 今後は、第2学年の保健の授業内でこのような形式の授業が行えるよう、関係機関と連携を図り、必要に応じて予算の確保についての検討も必要である。